

第3次図書館ビジョンのための論点（案）

（１）今日の社会における公共図書館の基本的な役割とは？また世田谷区がこの時期に求める区立図書館の役割とは

- ・知と学びと文化の情報拠点
- ・必要な知識や情報を入手できる場
- ・文化・教養・知的好奇心を満たす場
- ・地域の特性を現し、人々の結びつきやまとまりを生み出し、人々の地域への思いを豊かにさせる施設

その中で、区がこの計画期間に図書館に特に求めるものは？

- ・生涯を通じた学びの充実
- ・多様な人々のコミュニティの醸成 など

（２）人々のニーズに合った魅力的な図書館サービスとはなにか？どのようなサービスを提供し多くの人々に利用してもらうか。

人々に求められる資料を収集・蓄積し、区民の資料要求に応え提供するという基本的な図書館サービスを前提に、次のようなサービスに力を入れる

- ・人々の抱える問題・課題・関心事に応え、その解決・充足のために必要な知識・情報獲得（それに関する文献の探索・確保・提供）を支援するサービスの提供
- ・本に書かれている中身を体験したり本に描かれた世界をより深く理解するイベントを開催するなど、人々の想像力や好奇心を掻き立て、創造性や共感性を高めるような取組の実施
- ・様々なライフスタイルをもつ人々が、それぞれの生活の中で容易に便利に利用できるサービス提供方法（非来館サービス、Webサイトやスマホアプリなどによる図書館のDX化など）

（３）知識・情報インフラとして必要な資料、情報資源をどう構成構築していくか。特に、紙からデジタルへという社会の流れに対応する電子資料及びリモート情報源の位置づけをどう考えるか。

- ・電子書籍の充実、コンテンツの幅の拡大（電子書籍提供業者への働きかけを含む。）
- ・必要なネットワーク上の情報資源（リモート情報資源）の確保とそれらを利用しやすいシステムの導入・構築

（４）地域の人々の繋がりや様々な活動を促進し、地域の魅力を高め活性化させるために図書館は何ができるか。また地域の特徴を生かし反映した図書館をどのように作っていくか。

- ・地域特性に合った地域図書館づくり（特別コレクション、イベント、その他の取組）
- ・地域の人々との協働による地域の記録・記憶の収集・保存・公開

- ・地域の諸機関、団体との連携
- ・多様な属性（日本語以外を母語とする人々を含む。）を持つ人々を含めた多元的で多様な地域の繋がりや活動の促進

（５）一般的な資料の利用や施設の利用に障がいを持つ人々もその人に適切な方法で利用でき、その人の自己実現に貢献できるようになるにはどうしたらよいか（読書バリアフリー法に関わる課題も含む。）

- ・視覚障がいをもつ人々への視覚以外の手段による資料・情報等の提供（音訳及びPCの読み上げ機能を利用した資料・情報提供）
- ・様々な障害に応じたサービスの提供
- ・だれでも利用できるユニバーサルな施設・設備づくり
- ・来館が困難な人々へのアウトリーチサービス

（６）子どもの読書の推進をどのように進めるか、子どもの教育にどのように貢献するか（子どもの読書推進計画にかかる課題を含む。）

- ・GIGAスクールの時代に求められる子ども達の教育への支援
- ・子ども達に本を読む楽しさを伝え、読書する力の獲得を支援
- ・子どもや若者の生活の中に本・読書を持ち込み、本を通じた知識獲得や感動体験を支える
- ・子どもや若者達が安心でき、心が解放される場の提供

（７）災害などの危機が生じても人々に必要な資料情報を届けられるよう、どのようなサービス体制を構築していくか。

- ・図書館に来館しなくとも資料や情報の提供を受けられるサービス提供
- ・Webサイトやスマホアプリを使った情報提供（デジタル情報資源の提供・WEBレファレンスなど）
- ・イベント等のオンライン開催

（８）以上の事項を実現するための高い専門性と効率性を両立させる図書館の経営・運営体制をどのように作っていくか

- ・資料や情報、図書館運営に関する高い専門性
- ・区民が納得できる費用対効果、効率性
- ・区民のニーズに合った図書館運営及びサービスの実行力